



2016年9月～2017年8月
2017年度ものづくり教室の開催実績
 * 46都道府県中34都府県で開催(2017年9月5日、金属労協調べ)

東北

1. **岩手**
 「第7回親子ものづくり教室」
 (2017年7月29日、盛岡市「キャラホール」)
 内容：モーター工作・ペーパークラフトカー作り
 参加者：親子60名程度
2. **秋田**
 「夏休み親子ものづくり教室」
 (2017年7月22日、大館市立上川沿公民館)
 内容：①発電のしくみ(協力：東北電力労組秋田県本部)
 ②ばこカーの制作&走行会
 参加者：親子25組 スタッフ28名 計78名
3. **宮城**
 「第10回親子でもものづくり教室」
 (2017年8月5日、ハーネル仙台)
 内容：モーターカー作り
 参加者：親子20組
4. **山形**
 「ものづくり教室」
 (2016年11月27日、山形市)
 内容：①3Dプリンタ実演
 ②「近未来デザイン・オートバイ」の作成
 参加者：親子8組18名、スタッフ7名
5. **福島**
 「親子でもものづくり教室」
 (2017年4月29日、福島市)
 内容：モーターカー・バイクづくり
 参加者：親子65組

関東

6. **群馬**
 勤福フェスタにおける「親子ものづくり教室」
 (2016年11月23日、勤労福祉センター)
 内容：紙コップで作る手作りスピーカー
 参加者：親子41名
7. **群馬**
 夏休み「親子ものづくり教室」
 (2017年7月29日、勤労福祉センター)
 内容：ロープウェイ工作
 参加者：親子40組79名、スタッフ10名
8. **栃木**
 「2016ものづくりポリテクフェスタ」
 (2016年10月16日、宇都宮市)
 内容：モーター工作
 参加者：親子48組
9. **埼玉**
 「親子ものづくり教室」
 (2017年9月2日、ものつくり大学)
 内容：タイルコースター作り
 参加者：親子30組
10. **東京**
 「2017年度ものづくり教室」
 (2017年8月27日、日野市中央公民館 高幡台分室)
 内容：ソーラーカーの組立
 参加者：親子40組
11. **山梨**
 「第9回親子ものづくり教室」
 (2017年8月5日、甲府市)
 内容：サイクロン式ペットボトルクリーナーの製作
 参加者：親子27組60名、スタッフ12名

14. 福井

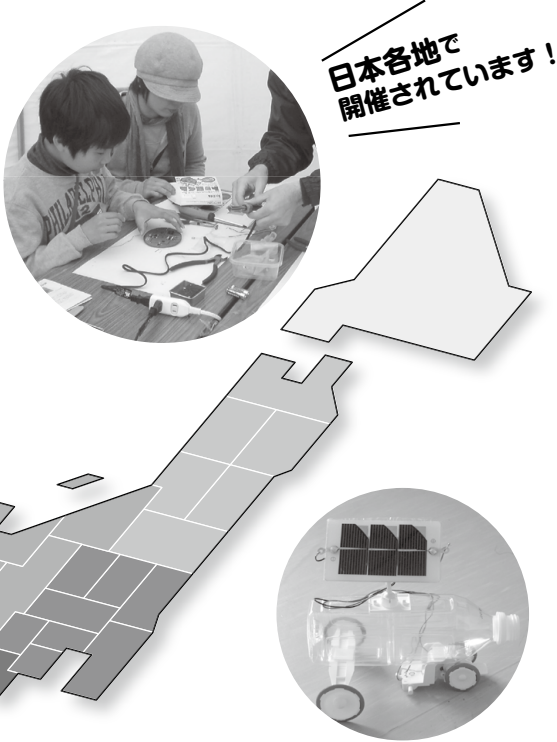
「親子ものづくり教室」
 (2017年4月30日、甲南地区・連合福井メーデー会場)
 内容：模型カーづくり体験(自動車総連福井中心)
 参加者：62名

15. 長野

「第11回親子ものづくり教室」
 (2017年7月29日、IHI芝浦労働組合会議室)
 内容：電子キット「アポイダーⅢ」の組み立て
 参加者：親子43名、スタッフ9名

16. 新潟

「親子ものづくり体験教室」
 (2017年7月22日、燕市吉田産業会館)
 内容：LEDランプの制作
 参加者：親子32組64名



東海

17. 静岡

「ものづくりフェスタ2017inしずおか」
 (2017年8月19日、静岡市)
 内容：木工二輪工作
 参加者：親子200組

18. 岐阜

「親子モノづくり体験教室」
 (2017年7月29日、ワークプラザ岐阜)
 内容：①モーター振動の原理などの講習、
 ②ワイヤーブラシを使った動く動物作成、
 ③作品によるトーナメントレース
 参加者：親子20組

19. 三重

「第9回親子ものづくり教室」
 (2017年7月22日、四日市市)
 内容：モーター工作(二輪)
 参加者：親子50組101名

九州

31. 福岡

「ものづくり教室」

(2017年8月8日、三菱重工工業株式会社下関造船所江浦工場)
 内容：下関造船所の工場見学、ソーラーキットの製作
 参加者：40名(子ども17名、保護者14名、スタッフ9名)

32. 佐賀

「親子ものづくり教室」

(2017年4月29日、どんどんの森) *佐賀県中央メーデー会場
 内容：①木工四輪車、②木工二輪車、
 ③ペーパークラフト
 参加者：子供60名、スタッフ13名

33. 大分

「第5回親子deものづくり教室」

(2016年11月13日、中津市)
 内容：木材モーター四輪車工作
 参加者：50名、スタッフ12名

34. 大分

「ものづくり教室」

(2017年8月7日、大分市「全労済ソレイユ」)
 内容：木工モーター四輪車両工作
 参加者：80名

35. 宮崎

「親子ものづくり教室」

(2017年4月29日、宮崎市)
 *連合宮崎中央メーデー会場
 内容：木工二輪模型の作製
 参加者：50組

36. 鹿児島

「親子ものづくり教室」

(2017年4月29日、鹿児島市)
 内容：木製モーターバイク工作、
 ソーラーバッチ工作
 参加者：家族60組・子供90人、
 スタッフ12名



中国

26. 鳥取

「親子ものづくり教室」

(2017年7月30日、鳥取市「ポリテクセンター鳥取」)
 内容：「ペットボトルエコライト」
 「木工椅子」
 参加者：100名(親子90名、スタッフ10名)

27. 島根

「親子ものづくり教室」

(2017年7月23日、松江市「ポリテクセンター島根」)
 内容：ペットボトルソーラーカーの製作
 参加者：小学生18名、保護者14名、スタッフ6名

28. 広島

「第8回親子ものづくり教室」

(2017年4月29日、広島市、福山市)
 *広島県中央メーデー会場と福山地域メーデー会場での同時開催
 内容：①広島県中央メーデー会場：
 木製モーターカー、木製モーター二輪車、
 電子工作ソーラーフロッグ
 ②福山地域メーデー会場：
 木製モーターカー、木製モーター二輪車、
 電子工作電子ゴマ
 参加者：2会場合わせて親子187組、
 スタッフ61名

12. 富山

「親子ものづくり教室」

(2017年8月26日、魚津市)
 内容：ソーラーメロディハウス及び
 プラ板キーホルダーの製作
 参加者：親子40組80名

13. 石川

「第7回親子ものづくり教室」

(2017年7月22日、小松市市民センター)
 内容：木製モーター自動車を作製、
 ペーパークラフトの
 ボディー作製でアップグレード
 (組み立てキットを使用)
 参加者：親子27組60名、スタッフ12名

29. 岡山

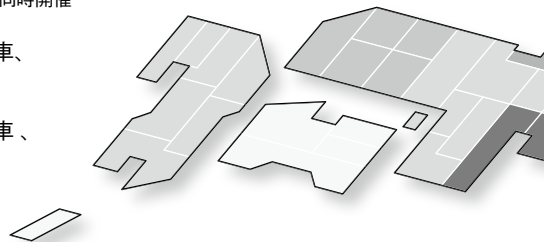
「親子ものづくり教室」

(2017年5月6日、岡山市)
 *岡山県中央メーデー会場(岡山ドーム)
 内容：ソーラーバッチの製作
 参加者：親子97組、スタッフ16名

30. 山口

「親子deものづくり教室」

(2017年4月29日、山口市)
 *連合山口メーデー会場(山口きらら博記念公園)
 内容：モーター工作、ペーパークラフト
 参加者：親子138組、スタッフ40名



関西

20. 滋賀

「ものづくり勉強会」

(2017年8月22日、東近江市)
 内容：①ものづくり工場見学
 「パナホーム(株)本社工場」
 ②ものづくり体験
 「振動で移動する『ぶるぶる・ネズミ』」
 参加者：親子30組

21. 京都

「ものづくり教室」

(2017年8月5日、京都市)
 内容：電池で動く扇風機づくり
 参加者：親子10組

22. 奈良

「モノづくり教室」

(2017年8月5日、奈良県産業振興総合センター)
 内容：「ソーラー発電LED照明」
 太陽光発電と再生可能
 エネルギーについて学ぼう！
 参加者：子供20名+保護者
 +工業高校生徒(指導係)5名
 スタッフ10名
 (金属部門連絡会・高教組・奈良県)

23. 和歌山

「ものづくり教室」

(2017年8月6日、和歌山県勤労福祉会館・
 プラザホープ)
 内容：ソーラーカーの製作
 参加者：子ども24名、保護者20名、
 スタッフ11名、総計55名

24. 大阪

「親子ものづくり教室」

(2017年2月18日、門真市)
 *NPO法人「教育支援・Kidsもりぐち」との共催
 内容：LED行燈の製作
 参加者：小学4年生40名、保護者16名、
 スタッフ(NPO、JCM)19名、
 総計75名

25. 兵庫

「わくわく科学・工作教室」

(2017年8月6日、神戸市)
 *電機連合単独開催 *「くらしに関西」との共催
 内容：活性炭電池
 ~なぜ電気が流れるかを知ろう~
 参加者：子ども72名(親子64組)、
 スタッフ8名

※写真は2016年以前に開催されたものづくり教室より

ものづくり教室の今後の充実に向けて ものづくりの楽しさを子供達に伝える

金属労協組織総務局 主査 渡辺 美知夫

ものづくり教室の開催に至るまで

金属労協は、ものづくり立国・日本における技術・技能の継承・育成、ものづくり産業基盤の強化のために、人づくり・人材育成が何よりも重要であるとの認識のもと、活動を展開してきた。そのため、学校教育の初期の段階から、工業高校・大学・大学院課程、生涯教育に至るまで、戦略的なものづくり教育の構築の重要性を主張して、文部科学省、厚生労働省をはじめ各府省に対し、政策・制度要求を行ってきた。また、経営者団体とも、ものづくり教育の強化・充実について提唱してきた。

その中で、金属労協としても、各方面に要請するだけでなく、労働組合自らの取り組みとして、「ものづくり教室」の開催を打ち出した。2003年9月定期大会で承認した「2004年度活動方針」の中において、「小学生を対象としたものづくり教室」について、「技術・技能の継承・育成、将来の国内ものづくり産業の基盤強化のためには、健全な職業観の育成など、人材育成が何よりも重要であり、戦略的なものづくり教育の構築が必要である。金属労協は、その具体化の1ステップとして、小学生に対するものづくり教育の拡充に焦点を絞り、労働組合として、それぞれの地域において、ものづくりや科学の楽

しさを子供たちに直接訴えかける活動を展開する。具体的には、各産別・地域と連携を図り、ものづくりあるいは科学分野の工作・実験などを小学生と共に行う『ものづくり教室』（仮称）を試行的に実施し、さらに他の地域にも広げていく取り組みを進めていく」ことを打ち出した。

この活動方針を基に、金属労協として、将来的な全国展開を念頭に置きながら、まず金属労協の提案に賛同していただいた電機連合加盟のパイオニア労働組合所沢支部に、最初のものづくり教室の開催への協力をお願いし、2003年12月に第1回ものづくり教室を開催した。

第1回から現在までの経過

第1回ものづくり教室を開催して以来、2004年4月の第7回地方ブロック代表者会議では、「ものづくり教室の全国展開」について、各地方ブロックのサポートを要請している。以後、金属労協として毎年の『地方における金属・ものづくり政策・制度要求』の中で、特に「ものづくり教室」の開催を打ち出しており、若干の補助金も出して開催を促進してきた。

その結果、2006年7月に東京で「ものづくり教室」を、基幹労連東京都本部を中心に開催、鋳物のペンダントづくりに子供たちが取り組んだ。8月には富山で「ものづくり教室」を開催、

扇風機づくりを行うなど、県金属部門として「ものづくり教室」を開催するところが徐々に増加し定着してきた。2008年度の状況を見ると、関東ブロックでは、埼玉、東京、栃木と開催してきており、北信越ブロックにおいても、新潟、富山、長野で夏休みを利用して「親子ものづくり教室」を開催している。2008年度においては新たに東北ブロックで、秋田と宮城で8月の夏休みを利用して「親子ものづくり教室」を開催しており、2009年8月までに全国11都県で開催されるに至っている。

この間金属労協では地方ブロックを通じて、各都府県別の地方連合金属部門連絡会の設置を2003年11月以降進めてきたが、2010年9月の連合宮崎金属部門連絡会の結成を持って、沖縄を除く46都道府県に連合金属部門連絡会の設置を完了した。

2010年度の状況を見ると、新たに開催した県もあり、更なる広がりを見せている。2009年10月に北海道ブロックでは室蘭においてポルタ人形づくりと工場見学をセットにしたものづくり教室を初めて実施した。中国ブロックでは広島と山口、四国ブロックでは愛媛で、2010年4月末の地方連合ミーデーにおいて「ものづくり教室」を初開催している。



ものづくり教室

また、2010年5月30日には、福岡県北九州市の「このみクラブ」で、金属労協九州ブロック主催、北九州市の後援で初の「親子ものづくり教室」を開催した。九州ブロック各県での「親子ものづくり教室」開催の促進イベントも兼ねて、金属労協の支援、学研創造研究所の協力を受けて、実験ショーとものづくり教室の2部形式で行った。親子ものづくり教室には、連合福岡金属部門連絡会の各産別の親子130名(うち子供56名)が熱心に参加した。

大会時に「ものづくり教室展示コーナー」を初開設

昨2016年9月の第56回定期大会では、「ものづくり教室展示コーナー」を初めて開設した。2016年度(2015年9月～2016年8



JCM大会会場に設置されたものづくり教室作品展示コーナー
(2016年9月6日 東京国際交流館)

月)には、地方ブロックのサポートにより、各都道府県の連合金属部門連絡会を中心に、全国34都道府県で「ものづくり教室」を開催、小学生を対象に将来のものづくり産業を担う人材育成に金属労協加盟の産別地方組織や単組・支部の役員の方々の協力のもと、活動を展開した。今回の展示コーナーには、「ものづくり教室」でどのようなモノを実際に作っているのか、各県金属部門の担当者の方に参考にもう一つのために、地方ブロックを通じて、子供達が実際に作ったキット(完成品)を送ってもらい展示した。全国から23点が集まった。大会参加者は、昼休みや休憩時間に、展示コーナーで、興味深く手に取ったりして見学していた。

各地方ブロック、各県の金属労協加盟産別地方組織、加盟単組支部の担当者のご尽力のもと、地方連合金属部門連絡会、地方連合、加盟単組支部の労使のご協力を得ながら、直近の2017年度においては、全国46県別金属部門連絡会のうち34都道府県で「ものづくり教室」を開催するに至っている。

最近の特徴

第1回ものづくり教室以来、13年余が経過し、各都道府県の金属部門連絡会での、ものづくり教室の開催は、隔年開催のところも含めると46都道府県中、37都道府県で開催されるまでに定着した。各地方ごとに長年の担当者の皆さんのご努力により、特徴も出ている。2006年夏休みを利用して富山から開始した北信越ブロックでは、ほぼ全県での開催が定着しており、道具箱を参加者分常時用意し、ものづくり体験教室

に使うようにしている県が多いと聞く。中国ブロックの各県は、先に開始した鳥取、島根は夏休みに実施しているが、後の広島、山口、岡山の3県はメーカーの時に合わせて「ものづくり教室」を開催し、以降、他の県でもメーカー時に開催する県も増加している。また、宮崎や山梨、滋賀、福岡などでは、各県にある金属労協加盟組織の工場見学と工場内でのものづくり体験をセットで実施して、子供たちに「ものづくり工場」を目で見て、そして、ものづくりを体感する企画をしているところもある。また、最近では、大阪や兵庫、群馬や栃木、静岡などのように、NPOや地域団体と提携して開催しているところも増えてきている。

今後について

「継続は力なり」とある通り、今や、金属労協が提唱し支援・推進する「ものづくり教室」は、各県の金属部門連絡会の担当者、労使、地方連合など関係者の方々のご尽力に支えられて、「ものづくりの楽しさを子供たちに伝える!!」との創設のモットーを継承しつつ、各県金属部門連絡会の重要な活動の柱として定着している。第1回ものづくり教室の折、当時の鈴木勝利議長が、会場でマスコミのインタビューに、「ものづくり教室を、特にものづくり組合のOBの人達に対する生きがいのある場として全国各地で開催するのが夢」と答えておられたことが印象に残っている。担当者、スタッフの皆様の陰のご尽力に感謝しつつ、末永く、日本のものづくり産業の人づくりのために、この「ものづくり教室」が各都道府県で継続開催されることを祈りたい。